

定 期 作 況 報 告

令和6年8月
(8月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年並で、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より極めて多く（平年比276％）、日照時間は少なかった（平年比57％）。

8月上旬：最高気温は高く、最低気温、平均気温はやや高かった。降水量は平年より極めて多く（平年比253％）、日照時間は平年並であった（平年比96％）。

8月中旬：最高気温はやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。降水量は少なく（平年比41％）、日照時間はやや多かった（平年比124％）。

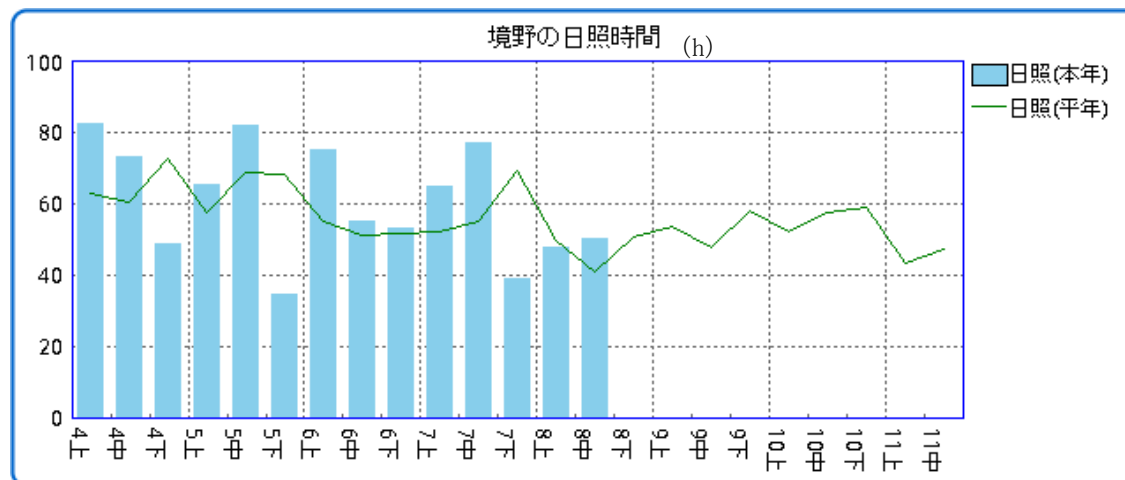
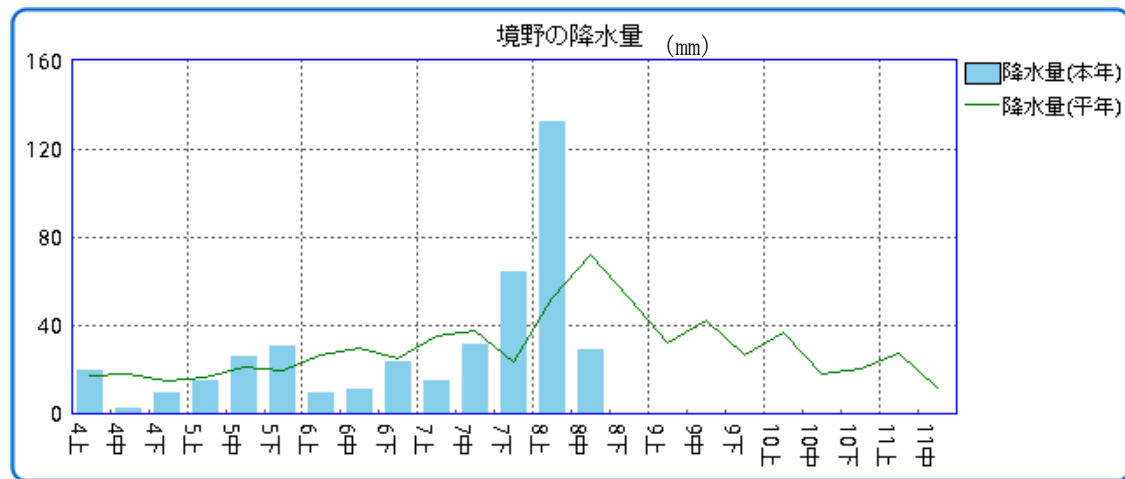
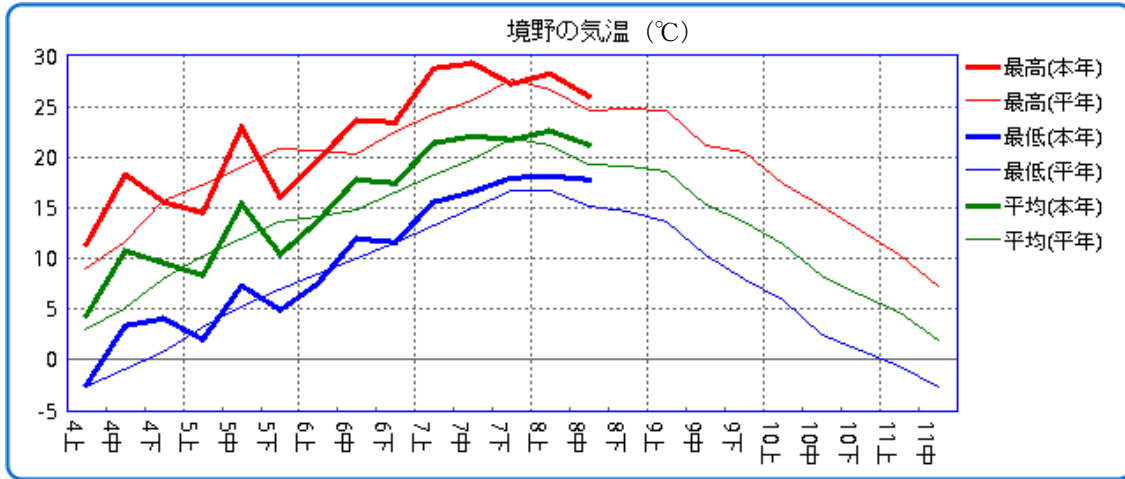
以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温がやや高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

気象表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	21.8	21.8	0.0	27.2	27.7	-0.5	17.9	16.7	1.2
8月 上旬	22.5	21.1	1.4	28.3	26.6	1.7	18.1	16.7	1.4
8月 中旬	21.2	19.3	1.9	26.0	24.6	1.4	17.7	15.1	2.6
平均値	21.8	20.7	1.1	27.2	26.3	0.9	17.9	16.2	1.7

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	64	23.2	40.8	39.2	69.3	-30.1
8月 上旬	133	52.3	80.2	48.1	49.9	-1.8
8月 中旬	29	71.5	-42.5	50.6	40.8	9.8
合計値	75	49.0	26.2	46.0	53.3	-7.4

注）観測値は置戸町境野のアメダスによる（てん蔵の定期作況気象情報）。10年平均は前10か年の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（令和5年9月播種） 作 況：良

月	作況	事由
令和5年 11月20日	やや良	播種期は平年より4日遅い9月25日であった。出芽期は平年より3日遅い10月1日であった。播種が遅かったが、出芽期以降、平均気温が平年より高く経過したため、越冬前の草丈は平年並みで茎数は平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
令和6年 5月20日	平年並	根雪始は平年より6日遅い12月16日、根雪終は平年より1日早い4月4日で、根雪期間は平年より6日短かった。作況の調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が根雪の観測地点より6日早い3月29日であった。雪腐病の発生は僅かに認められた。コムギ縞萎縮病が発生し一部に萎縮症状が認められたが、融雪後の平均気温が平年に比べ4月は高く経過したため、草丈は平年を上回り、茎数は平年並となった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
6月20日	平年並	出穂期は平年より3日早い6月5日であった。この1ヶ月は気温は平年並みであったことから、草丈は平年並みで茎数は平年をやや上回った。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	やや良	6月下旬から7月中旬の気温は高く推移したため、登熟は平年よりやや早く進み、成熟期は平年より5日早く7月18日だった。登熟期間は平年より2日短くなった。稈長は平年を上回り、穂長は平年並み、穂数は平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	良	穂数が平年を上回ったこと、7月上、中旬の日照時間が長かったこと（前報）により、子実重は平年比129%であった。リットル重、千粒重ともに平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目／年次		本年	平年	比較
播種期	(令和5年月. 日)	9. 25	9. 21	4
出芽期	(令和5年月. 日)	10. 01	9. 28	3
出穂期	(令和6年月. 日)	6. 05	6. 08	△ 3
成熟期	(令和6年月. 日)	7. 18	7. 23	△ 5
草丈 (cm)	(令和5年11月20日)	15. 4	15. 3	0. 1
	(令和6年5月20日)	49. 0	35. 1	13. 9
	(令和6年6月20日)	81. 9	81. 9	0. 0
茎数 (本/㎡)	(令和5年11月20日)	1263	1048	215
	(令和6年5月20日)	1429	1433	△ 4
	(令和6年6月20日)	839	767	72
成熟期	稈長 (cm)	84	75	9
	穂長 (cm)	8. 3	8. 2	0. 1
	穂数 (本/㎡)	876	685	191
子実重 (kg/10a)		826	641	185
同上平年比 (%)		129	100	29
リットル重 (g)		784	787	△ 3
千粒重 (g)		38. 5	38. 4	0. 1
品質 (検査等級)			1	-

注) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和4年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦

作 況：平年並

月	作況	事由
5月20日	良	調査圃場は融雪剤散布により3月28日に融雪期となった。播種期は平年より1日遅い4月15日となった。4月中旬の平均気温が極めて高く、4月下旬はやや高かったため、出芽期は2日早くなり、5月中旬の平均気温も極めて高かったため、草丈・茎数ともに平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
6月20日	平年並	前節まで生育が良好であったが5月下旬の平均気温は極めて低かったため、出穂期は平年より並～1日早く、草丈は平年を上回り、茎数は平年並～やや下回った。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年と比較して稈長は並～やや長く、穂長は並～長く、穂数はやや下回った。倒伏はほとんど見られなかったが、気温が高く推移したことから「春よ恋」で赤さび病の発生が多く、赤かび病の発生はわずかに見られた。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	出穂期は平年並～1日早く、7月上旬の平均気温が極めて高く、中旬は高く推移した（前報）ことから、成熟期は平年より7日早く、登熟期間は平年より6～7日短かった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

作況データ

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月. 日)	4. 15	4. 14	1	4. 15	4. 14	1	
出芽期 (月. 日)	4. 26	4. 28	△ 2	4. 27	4. 29	△ 2	
出穂期 (月. 日)	6. 18	6. 19	△ 1	6. 17	6. 17	0	
成熟期 (月. 日)	7. 28	8. 3	△ 7	7. 31	8. 6	△ 7	
草丈 (cm)	(5月20日)	31. 4	21. 5	9. 9	31. 6	23. 1	8. 5
	(6月20日)	83. 2	71. 5	11. 7	83. 1	71. 7	11. 4
茎数 (本/㎡)	(5月20日)	943	665	278	911	647	264
	(6月20日)	751	771	△ 20	648	739	△ 91
稈長 (cm) (7月20日)	97	93	5	95	90	4	
穂長 (cm) (7月20日)	8. 8	8. 5	0. 3	8. 4	7. 8	0. 6	
穂数 (本/㎡) (7月20日)	594	669	△ 75	563	669	△ 106	
子実重 (kg/10a)		500			516		
同上平年比 (%)		100			100		
リットル重 (g)		782			782		
千粒重 (g)		39. 5			41. 3		
品質 (検査等級)		1	-		1	-	

注) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし（サイレージ用）

作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より7日遅い5月23日に行った。播種直後は気温が低かったものの6月に入り持ち直し、十分な降雨もあったことから、出芽期は平年より2日遅い6月6日であった。出芽期以降は気温が高く推移し、6月20日現在の草丈は平年より0.4cm高く、葉数は0.2枚少ない。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	6月下旬以降平年より高温で推移し、7月20日現在の草丈は平年より7.1cm高かったものの、葉数は13.1枚と平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	7月下旬以降気温は平年並から高く推移した。平年に比べ開花期は1日早く、抽糸期は同日であった。8月20日現在の草丈は平年より2.1cm低く、葉数は0.4枚多く、平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

生育データ

調査項目		KD320		
		本年	平年	比較
播種期	(月・日)	5.23	5.16	7
出芽期	(月・日)	6.06	6.04	2
開花期	(月・日)	7.31	8.01	△ 1
抽糸期	(月・日)	7.31	7.31	0
収穫期	(月・日)		9.26	
収穫時の熟度			黄熟初期～ 黄熟中期	－
草丈(cm)	(6月20日)	29.6	29.2	0.4
	(7月20日)	188.3	181.2	7.1
	(8月20日)	277.7	279.8	△ 2.1
稈長(cm)	(9月20日)		252	
葉数(枚)	(6月20日)	4.6	4.8	△ 0.2
	(7月20日)	13.1	12.8	0.3
	(8月20日)	15.6	15.2	0.4
生総重(kg/10a)			6564	
乾物茎葉重(kg/10a)			997	
乾物雌穂重(kg/10a)			1066	
乾物総量(kg/10a)			2063	
同上平年比(%)			100	
推定T D N収量(kg/10a)			1486	
同上平年比(%)			100	
総体の乾物率(%)			31.9	
乾雌穂重割合(%)			51.7	
有効雌穂割合(%)			100	

注1) 一昨年度から調査品種を「KD320」に変更。平年値は前5か年の平均。

注2) 推定T D N収量＝乾物茎葉重×0.582＋乾物雌穂重×0.850。

注3) 乾物収量や割合に関する一部の項目は、小数点以下の四捨五入などの計算方法により、表中の数値をもとに計算しても一致しない場合がある。

5) 大豆

作 況：やや良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より2日遅い5月22日に行った。播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より4日遅い6月8日であった。出芽後は気温が平年並から高く、日照時間がやや多く経過し、生育は順調に進んだため、主茎長、本葉数はともに平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年より気温は高く、日照時間はやや多く推移した結果、開花始は平年より2日早い7月15日であった。一方、降水量はやや少なかったため、分枝数は平年と比べてやや多いものの、主茎長および本葉数は平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	生育は順調に進み、主茎長および主茎節数は平年並であるが、分枝数および着莢数は平年をやや上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
調査項目		本年	平年	比較
播種期	(月. 日)	5. 22	5. 20	2
出芽期	(月. 日)	6. 08	6. 04	4
開花始	(月. 日)	7. 15	7. 17	△ 2
成熟期	(月. 日)		9. 22	
主茎長 (cm)	(6月20日)	11. 2	9. 2	2. 0
	(7月20日)	53. 0	50. 3	2. 7
	(8月20日)	64. 0	61. 9	2. 1
	(9月20日)		63. 5	
	(成熟期)		63. 0	
本葉 数(枚)	(6月20日)	1. 7	0. 9	0. 8
	(7月20日)	7. 2	7. 9	△ 0. 7
主茎節数	(8月20日)	10. 0	10. 2	△ 0. 2
	(9月20日)		10. 1	
	(成熟期)		10. 1	
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5. 4	4. 7	0. 7
	(8月20日)	6. 2	5. 4	0. 8
	(9月20日)		5. 0	
	(成熟期)		4. 9	
着莢数 (個/株)	(8月20日)	85. 5	82. 1	3. 4
	(9月20日)		75. 8	
	(成熟期)		75. 5	
一莢内粒数			1. 93	
子実重(kg/10a)			366	
同上平年比(%)			100	
百粒重(g)			32. 7	
屑粒率(%)			1. 7	
品質(検査等級)			2上	—

注1) 平年値は前7か年中、30年(最凶)、令和5年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

5) 小豆

作 況：やや良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より1日遅い5月22日に行った。播種後の低温で経過したため、出芽期は平年より2～3日遅い6月12日であった。出芽後は高温で日照時間がやや多く経過し、生育は順調に進んだため、主茎長、本葉数はともに平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年より気温は高く、日照時間はやや多く推移したが、降水量はやや少なかったことから、主茎長は平年をやや下回り、本葉数および分枝数は平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	開花前の気温が高く推移した結果、開花始は平年より3～4日早い7月21日であった。主茎長および主茎節数は平年を上回り、着莢数は平年を大きく上回るが、分枝数は平年を下回っている。「エリモショウズ」および「きたろまん」のいずれも倒伏が発生している。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

生育データ

調査項目		エリモショウズ			きたろまん		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期（月・日）		5. 22	5. 21	1	5. 22	5. 21	1
出芽期（月・日）		6. 12	6. 09	3	6. 12	6. 10	2
開花始（月・日）		7. 21	7. 25	△ 4	7. 21	7. 24	△ 3
成熟期（月・日）			9. 28			9. 27	
主茎長 （cm）	（6月20日）	3. 4	3. 4	0. 0	3. 4	3. 3	0. 1
	（7月20日）	14. 0	18. 6	△ 4. 6	15. 0	17. 6	△ 2. 6
	（8月20日）	74. 0	63. 1	10. 9	90. 0	63. 7	26. 3
	（9月20日）		68. 6			72. 6	
	（成熟期）		67. 4			68. 9	
本葉数 （枚）	（6月20日）	0. 6	0. 3	0. 3	0. 6	0. 3	0. 3
	（7月20日）	6. 4	6. 7	△ 0. 3	6. 4	6. 4	0. 0
主茎節数	（8月20日）	16. 2	14. 2	2. 0	16. 2	13. 4	2. 8
	（9月20日）		14. 3			13. 7	
	（成熟期）		14. 0			13. 5	
分枝数 （本/株）	（7月20日）	2. 1	2. 3	△ 0. 2	2. 2	2. 0	0. 2
	（8月20日）	2. 5	4. 3	△ 1. 8	2. 1	3. 3	△ 1. 2
	（9月20日）		3. 7			2. 9	
	（成熟期）		4. 3			3. 4	
着莢数 （個/株）	（8月20日）	65. 9	38. 7	27. 2	57. 3	36. 4	20. 9
	（9月20日）		51. 2			49. 7	
	（成熟期）		53. 2			51. 0	
一莢内粒数			6. 27			6. 38	
子実重(kg/10a)			372			368	
同上平年比（％）			100			100	
百粒重（g）			15. 1			16. 8	
屑粒率（％）			9. 1			8. 4	
品質（検査等級）			4上	－		4上	－

注1) 平年値は前7か年中、令和5年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

6) 菜豆

作 況：やや良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年より2日遅い5月22日に行った。播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より9日遅い6月11日であった。出芽後は高温で日照時間がやや多く経過し、生育は順調に進んだため、草丈、本葉数はともに平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年より気温は高く、日照時間はやや多く推移したが、降水量はやや少なかったことから、開花始は平年と同日の7月7日であった。草丈および分枝数は平年をやや上回っているが、本葉数はやや下回っている。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	生育は順調に進み、主茎節数は平年をやや下回るが、草丈、分枝数および着莢数は平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

生育データ

調査項目		大正金時		
		本年	平年	比較
播種期	(月. 日)	5. 22	5. 20	2
出芽期	(月. 日)	6. 11	6. 02	9
開花始	(月. 日)	7. 07	7. 07	0
成熟期	(月. 日)		8. 31	
草丈 (cm)	(6月20日)	10. 0	11. 1	△ 1. 1
	(7月20日)	45. 3	38. 2	7. 1
	(8月20日)	46. 0	40. 8	5. 2
	(成熟期)		41. 2	
本葉数 (枚)	(6月20日)	1. 1	1. 1	0. 0
	(7月20日)	3. 2	3. 9	△ 0. 7
主茎節数	(8月20日)	5. 0	5. 4	△ 0. 4
	(成熟期)		5. 4	
分枝数 (本/株)	(7月20日)	6. 1	5. 6	0. 5
	(8月20日)	6. 5	5. 4	1. 1
	(成熟期)		5. 5	
着莢数 (個/株)	(8月20日)	23. 7	20. 2	3. 5
	(成熟期)		20. 2	
一莢内粒数			2. 83	
子実重(kg/10a)			309	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			64. 6	
屑粒率 (%)			11. 9	
品質 (検査等級)			4上	—

注1) 平年値は前7か年中、令和4年(最豊)、令和3年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

7) 馬鈴しょ 作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	平年並	植え付けは平年よりも1日早い、5月10日に行った。植え付け後の5月中旬～下旬の平均気温は変動が大きかったが、両品種の萌芽期は平年並であった。昨年の高温の影響で休眠が浅く、植え付け前の浴光催芽期間中（4月）の気温が高かったことから、両品種の茎数は平年よりも多かった。萌芽後の気温は平年並であったことから、両品種の茎長は平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	萌芽後の6月中旬～下旬の気温が平年よりも高かったことから、開花始は「男爵薯」で3日、「コナユタカ」で2日平年より早かった。6月下旬以降の降水量がやや少なかったことから、生育が停滞し、茎長は「男爵薯」が平年並、「コナユタカ」は平年よりも短かった。茎数は「男爵薯」で多く、「コナユタカ」で平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	「男爵薯」の茎長は平年並であり、黄変が進んでいる。「コナユタカ」の茎長は平年よりやや短かった。茎数は両品種とも並～やや多かった。塊茎肥大が進む7月上旬以降は高温傾向であったものの、降雨もあったことから、上いも重は両品種とも平年並であった。でん粉価は、「男爵薯」は平年よりやや低く、「コナユタカ」は平年よりやや高かった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

生育データ

調査項目		男爵薯			コナユタカ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月. 日)	5. 10	5. 11	△ 1	5. 10	5. 11	△ 1
萌芽期	(月. 日)	5. 27	5. 28	△ 1	5. 30	5. 31	△ 1
開花始	(月. 日)	6. 24	6. 27	△ 3	6. 30	7. 02	△ 2
枯ちょう期	(月. 日)		9. 02			10. 13	
茎長 (cm)	(6月20日)	25	25	0	16	15	1
	(7月20日)	58	55	3	72	81	△ 9
	(8月20日)	56	56	0	93	104	△ 11
茎数(本/株)	(6月20日)	5. 3	3. 9	1. 4	3. 1	2. 4	0. 7
	(7月20日)	5. 5	4. 5	1. 0	3. 0	2. 7	0. 3
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	5162	5140	22	4140	3994	146
	(9月20日)		5227			5873	
でん粉価(%)	(8月20日)	14. 7	15. 4	△ 0. 7	19. 7	18. 8	0. 9
	(9月20日)		15. 1			20. 3	
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)		-			1138	
上いも数(個/株)			10. 9			8. 0	
上いも平均重(g)			109			187	
上いも重(kg/10a)			5227			6532	
同上平年比(%)			100			100	
でん粉価(%)			15. 1			20. 9	
でん粉重(kg/10a)			-			1295	
同上平年比(%)			-			100	

注) 平年値は前7か年中、平成30年（最凶）、令和3年（最豊）を除く5か年の平均

8) てんさい

作 況：やや良

月日	作況	事由
5月20日	平年並	移植栽培の播種は、平年より1日早い3月23日に行った。以降、気温が高めに経過したため、育苗期間中の生育は良好であった。移植は平年より1日早い5月2日に行った。土壌条件は適湿であったため、活着は非常に良好であった。5月9日に降霜があったが、枯死する個体はほとんどなかった。その後、5月上旬の気温は低かったが、中旬が極めて高かったため、草丈、生葉数、茎葉重ともに平年並となった。 以上のことから、目下の作況は平年並である。
6月20日	やや良	5月下旬は気温が低かったものの、6月上旬以降は平年並以上に推移し、日照時間も6月上旬以降十分であったため、生育が進み、移植栽培、直播栽培とも、すべての項目で平年並あるいは平年をやや上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	やや良	6月下旬から7月中旬は、気温が高く日照時間がやや多かったため生育が進み、草丈、生葉数、根重は平年を上回った。一方、降水量が平年よりやや少なかった影響で、移植の茎葉重は平年をやや下回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	やや良	7月下旬から8月中旬は、気温が高く、降水量、日照時間が十分であったため生育が進み、すべての項目で平年並あるいは平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

生育データ

調査項目		移植						直播		
		ライエン			アマホマレ			ライエン		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	3.23	3.24	△ 1	3.23	3.24	△ 1	5.02	5.05	△ 3
移植期	(月.日)	5.02	5.03	△ 1	5.02	5.03	△ 1	-	-	-
出芽期	(月.日)	-	-	-	-	-	-	5.12	5.16	△ 4
収穫期	(月.日)		10.20			10.20			10.20	
草丈 (cm)	(5月20日)	6.0	7.1	△ 1.1	5.9	7.2	△ 1.3	-	-	-
	(6月20日)	23.0	22.3	0.7	26.3	23.9	2.4	21.8	14.1	7.7
	(7月20日)	54.8	51.8	3.0	55.6	54.7	0.9	57.9	49.7	8.2
	(8月20日)	58.8	56.2	2.6	63.7	61.3	2.4	61.8	58.2	3.6
	(9月20日)		57.3			63.7			60.1	
生葉数 (枚)	(5月20日)	7.4	6.3	1.1	5.9	5.2	0.7	-	-	-
	(6月20日)	18.6	12.5	6.1	13.9	11.4	2.5	11.6	9.0	2.6
	(7月20日)	24.8	21.4	3.4	24.6	21.0	3.6	22.8	20.1	2.7
	(8月20日)	31.5	26.9	4.6	28.1	25.5	2.6	25.6	26.3	△ 0.7
	(9月20日)		29.7			27.8			29.1	
茎葉重 (g/個体)	(5月20日)	1.3	1.2	0.1	1.4	1.3	0.1	-	-	-
	(6月20日)	66	65	1	87	68	19	49	14	35
	(7月20日)	465	531	△ 66	538	578	△ 40	533	411	122
	(8月20日)	780	796	△ 16	923	854	69	856	716	140
	(9月20日)		723			842			737	
根重 (g/個体)	(6月20日)	17	16	1	25	17	8	6	1	5
	(7月20日)	282	256	26	280	256	24	251	142	109
	(8月20日)	780	706	74	776	724	52	724	563	161
	(9月20日)		973			1004			853	
根周 (cm)	(7月20日)	23.2	23.5	△ 0.3	22.9	22.7	0.2	22.6	19.1	3.5
	(8月20日)	34.0	34.0	0.0	33.6	32.2	1.4	34.0	30.6	3.4
	(9月20日)		37.9			37.0			35.9	
根中糖分 (%)	(9月20日)		16.99			16.79			16.73	
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)		5410			5873			5185	
根 重(kg/10a)	(収穫期)		7514			7024			6382	
同上平年比 (%)			100			100			100	
根中糖分 (%)	(収穫期)		18.34			18.74			18.54	
同上平年比 (%)			100			100			100	
糖量(kg/10a)	(収穫期)		1377			1316			1182	
同上平年比 (%)			100			100			100	

注1) 平年値は前7か年中、令和3年（最豊）平成28年（最凶）を除く5か年の平均。

9) 牧草（チモシー）

作 況： 良

月日	作況	事由
5月20日	良	萌芽期は平年より1日早い4月16日で、冬損は認められなかった。萌芽後の平均気温は5月上旬を除いて平年より高く経過し、4月下旬の日照時間は平年より短かったが、生育は順調であった。5月20日現在の草丈は平年より12cm高い55cmであり、被度は100%であった。以上のことから、目下の作況は「良」である。
6月20日	<u>やや良</u>	1番草の収穫は平年より4日早い6月12日に行った。5月下旬は低温であったものの、6月上旬は気温が平年並で日照時間がやや多かったことから、1番草の出穂始および出穂期はそれぞれ平年より2-3日早い6月7日および6月12日であり、乾物収量は平年比109%であった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	<u>やや良</u>	1番草収穫後の平均気温は、6月下旬から7月中旬まで平年より高く推移した。 <u>降水量が少なかったことから2番草再生時の草丈は平年より5cm低かったものの生育は順調である。</u> 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	良	2番草の収穫は平年より3日早い8月1日に行った。1番草収穫後の平均気温は平年並から高く経過した一方で7月下旬に十分な降水があったことから、2番草の草丈は平年より8cm低いものの乾物収量は平年比140%と多く、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比117%であった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。

※6月20日の報告において1番草の収量データに誤りがあったことから、6月20日および7月20日の作況および事由を下線部のとおり修正する。

生育データ

品種名 調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月. 日)	4. 16	4. 17	△ 1
冬損程度		1. 0	1. 0	0. 0
被度 (%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始 (月. 日)		6. 07	6. 10	△ 3
出穂期 (月. 日)		6. 12	6. 14	△ 2
出穂程度	1番草	6. 0	7. 0	△ 1. 0
節間伸長程度	2番草	4. 0	4. 0	0
収穫日	1番草	6. 12	6. 16	△ 4
	2番草	8. 01	8. 04	△ 3
	3番草		10. 03	
倒伏程度	1番草	1. 0	1. 0	0
病害罹病程度	1番草	1. 0	1. 0	0
	2番草	2. 6	2. 0	0. 6
	3番草		3. 0	
草丈(cm)	(5月20日)	55	43	12
	(6月5日)	82	79	3
	1番草	98	99	△ 1
	2番草再生時	32	37	△ 5
	2番草	52	60	△ 8
	3番草再生時		35	
	3番草		38	
生草収量 (kg/10a)	1番草	<u>2,588</u>	2,425	<u>163</u>
	2番草	914	687	227
	1+2番草計	3,502	3,112	390
	3番草		457	
	合 計		3,570	
乾物率 (%)	1番草	23. 2	23. 0	0. 2
	2番草	28. 7	29. 0	△ 0. 3
	3番草		29. 0	
乾物収量 (kg/10a)	1番草	<u>601</u>	553	<u>48</u>
	同上平年比(%)	<u>109</u>	100	<u>9</u>
	2番草	263	188	75
	同上平年比(%)	140	100	40
	1+2番草計	864	741	123
	同上平年比(%)	117	100	17
	3番草		130	
	同上平年比(%)		100	
	合 計		870	
	同上平年比(%)		100	

注1) 平年値は前7か年のうち令和4年（最豊）、令和5年（最凶）を除いた前5か年の平均値。

注2) 冬損程度は1:無または微～9:甚。出穂程度および節間伸長程度は1:無～9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

注3) 6月20日公表の生育データにおいて1番草の収量データに誤りがあったことから下線の箇所を修正する（8月20日）。